

④文章表現

◆「わかりやすい読みもの」を作成する

- ・文章を「書く」というよりも「作る」という意識で
- ・審査員は大量の申請書を読まなければならない、自分の書類を読んでもくれる時間は1分程度と考えたい→**短時間で言いたいことを伝える必要**
- ・重要箇所（目的・意義・方法・予算等）は、肩肘張った表現を避け、**簡潔な文章**で
- ・レトリックな表現は避ける
- ・具体的な例を挙げながら説明を
- ・あれもこれもと欲張らず、無駄な文章は削ぎ落とす
- ・ある研究によると、人間が短期記憶できる考えの数は「 7 ± 2 （つまり5~9）」→**情報をグルーピングして伝えて、読み手の負担を減らすことを心掛ける**
- ・長文で説明するのではなく、箇条書きにして見やすく、わかりやすく
- ・解説を必要とするような図表は使用を避ける
- ・5W1Hを明確にする
- ・省略しない、しかし極限まで単純に
- ・韻を踏む、繰り返すことは、何らかの**感覚に結び付く表現は印象・記憶に残りやすい**ので、うまく利用しよう
- ・自分で「**やさしく書きすぎた**」と思うぐらいがちょうどよい

◆専門外の人にも理解できるように

- ・審査員全員が申請者の研究分野や研究手法を必ずしも熟知しているとは限らない
- ・**専門外の人が審査を行うことを前提**とし、素人が目を通して内容が理解できるように、平易な文章で
- ・専門用語には注釈をつけ、必要あれば図表を用いる
- ・読み手（審査員）は、①完全に無知だが、②高度な知性を備えている、ということを意識する
- ・「的確な伝え方」をすれば、必ず理解してもらえると信じる

◆漢字・カタカナの使い方に注意

- ・漢字のあからさまな多用は読みにくさ、硬さ、古臭さを感じさせ、マイナスの印象を与えることも
- ・漢字より仮名書きの方が好ましい語句もある
- ・同じ語句がカタカナで出てきたり原語で出てきたりすることがないように→文章内ではなるべくカタカナ、文献引用の場合は原語で記すのがよく、それが難しい場合には、申請書内で統一させる

◆冒頭で審査員の心を掴む

- ・導入部分、審査員の集中力があるうちに、研究の意義・必要性・妥当性を訴えかける
- ・**最初の課題名や最初の1行、最初の1ページが肝心**
- ・最初のページが独立した全体の要約になるように努める→やりたいこと、その重要性、実現可能性、予算などを簡潔にまとめて示すこと
- ・「最初に出てきたもの（初頭効果）」と「最後に出てきたもの（新近効果）」のほうが、途中から出てきたものより記憶に残るという研究がある
- ・審査員がアカデリズム畑の場合と企業の関係者の場合がある→前者であれば比較的学術的な貢献部分の説明を重めに、後者であれば社会貢献を重めに、といった感じでアピールポイントの比重を変える

◆問いに対する答えを明確に記述する

- ・**各項目に何を求められているのか**をきちんと把握し、明確に答えを提示する
- ・研究の目的を問われているならば「○○を目的とする」、研究の意義を問われた箇所では「○○という意義がある」など、聞かれていることに対してもらさず回答する

◆余白を作らない

- ・欄がしっかり埋まった申請書は書き手の熱意を感じさせ、好印象
- ・最終行まで無理して書く必要はないが、あまりに余白が多いものは印象を下げる
- ・特に研究実績欄に空白が多いと研究の遂行能力が疑われる→第三・第四著者のもの等でも構わないので書けるものは全て書いておく

◆具体性・客観性・説得力のある表現を

- ・主観的な表現を、具体的な事実に置き換えて書くことで客観性を担保する
- ・申請書に書かれていることが全て（審査員が「行間を読む」、「推測してくれる」ことを期待しない）
- ・「独創的」、「非常に特色がある」と主張するだけでは何がどう独創的なのか、どのような特色があるのか分からない→先行研究や類似研究とどのように異なり、どのように新しいかを、具体的なデータを提示して説明する
- ・調査方法をも具体的に記す→「文献を入手して調べる」、「○○氏にインタビューする」、「アンケートを行ってまとめ、学会で発表する」だけでは不完全

◆研究内容の「ストーリー」を提示する

- ・革新的、創造的かつ現実的なストーリー展開を提示する

- ・自身の過去の研究、その過程での経験、そこでの試行錯誤や反省点をも説明し、それらを活用することでどのようなことを実現し得る、と順序立てて具体的な取り込みを示したストーリーを組み立てる
- ・ストーリー展開の例として、研究目的欄は「先行研究→着想に至った経緯→何をどこまで明らかにするか」という構成が一般的だが、若手研究者は「自分のこれまでの研究成果→研究目的→先行研究」の順に書くのも印象的
- ・研究課題の説明においては「起承転結」ではなく「結起承転」の順が好ましい

◆他人の研究内容をうまく活用する

- ・他人の研究成果を引用する場合は効果的なもの、適切なものを厳選して引用すべきであり、網羅的ではなく選択的かつ批判的に記す

◆文章表現に簡単なミスはないか？

- ・誤字脱字はもってのほか
- ・専門用語などに誤解がないか

◆申請書を書き終えたら

- ・草稿を書いたらそれを**声に出して読んでみる**
- ・申請書を仕上げた後に、少なくとも二人にチェックして貰う→その後、彼らが申請内容（申請者が助成を受けて何をやろうとしているのか）を説明できなければ、審査員もそれを理解できない＝審査に通らない
- ・改善点はできるだけ多くの人に求めること
- ・同じ専門分野の人、全くの専門外の人両方から意見をもらうとよい